

石牟礼道子 再検証

2024年

12月22日(日)

14:00～17:00(開場 13:30)

熊本県立大学
中ホール(裏面参照)

対象…どなたでも

主催…熊本県立大学文学部

参加費
無料

ただし、一般の方は原則
事前申込をお願いします。

申し込み多数の際は
締め切る場合があります。

携帯電話の方は
コチラから
お申込いただけます



プログラム

開会挨拶 村尾治彦(熊本県立大学教授・文学部長) 司会 五島慶一(熊本県立大学文学部准教授)

第一部

講演・ミニ発表

登壇者

伊藤比呂美(詩人)
渡邊 英理(大阪大学教授)

ミニ発表

本学文学部日本語日本文学科学生

第二部

対談

伊藤比呂美 × 渡邊 英理

進行 五島慶一

● お問い合わせ先 熊本県立大学文学部日本文学資料室

Tel. 096-321-6632

E-mail : k-goto@pu-kumamoto.ac.jp

お申込は裏面から

熊本県立大学文学部では、これまでその研究や教育の成果の一端を地域社会はじめ外部へと発信し、同時に学生らに研究の面白さ・重要性を周知すべく、毎年度テーマを定めて学術フォーラムを開催してきた。

今年度は水俣出身の詩人・作家である石牟礼道子をテーマに据えてこれを行う。石牟礼作「苦海浄土」は広く、あるいは「世界文学」として（池澤夏樹ほか）知られるが、彼女の文学活動の始発点は短歌そして詩であった。そしてその後においては、詩的情緒を多分に含みながらも散文的結構を持った小説として成立している長短編作品や「苦海浄土」同様に独特の〈聞き書き・再話（的）形式〉のもとで日本の近代化と民衆精神の行方を占った「西南役伝説」のような一風変わった作品、更には新作能「不知火」に至るまで、その活動と遺された作品群は傾向・量ともに多岐に亘っている。

作家は作品によって〈作家〉になる。その意味では石牟礼道子という〈作家〉は、実際にはその名と「苦海浄土」が持つイメージほどには一般に知られていないということもできるのではないかと。そして、そのことは彼女の出身地で終の住処でもある、ここ熊本にあっても同様であろう。今回はそんな〈作家〉石牟礼道子を少しでも知ってもらう縁（よすが）とすべく、ここにその「再検証」を掲げてフォーラムを開催する。



撮影：吉原洋一

伊藤 比呂美

いとう ひろみ

1955年東京生まれ。1978年に詩集「草木の空」でデビュー、著書多数。2007年に石牟礼道子との共著『死を想うわれらも終には仏なり』。2014年から石牟礼大学「いま石牟礼道子を読む」を熊本文学隊の仲間と企画運営、司会を務める。近著に『とげ抜き新巢鴨地蔵縁起』『道行きや』『森林通信』他。西日本新聞で25年にわたって人生相談をやっている。2018年に長年のカリフォルニア生活を引上げ、帰熊。

講演者紹介



渡邊 英理

わたなべ えり

大阪大学大学院教授、文芸批評。熊本県生まれ、鹿児島県育ち。東京大学大学院総合文化研究科博士課程退学、博士（2012年）。単著『中上健次論』（インスクリプト、2022、第14回表象文化論学会賞）、共編著『クリティカル・ワード 文学理論』（三原芳秋・鶴戸聡と共編、フィルムアート社、2020）。『文学界』新人小説月評（2023年8月号～2024年7月号）連載。現在、共同通信・文芸時評「いま、文学の場所へ」（2023年4月～）を月一連載配信中。

お申込方法

一般の方は原則事前申込みをお願いいたします。



<https://forms.gle/M26U3t5MjgGN1tdj6>

携帯電話の方は
こちらから



会場案内



御来場にはできるだけ公共交通機関をご利用ください。
最寄りバス停は熊本都市バス①「県立大学前」もしくは②「日赤病院前」です。